

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目

中国朝鮮族の経済発展にともなう国内外への移動と民族社会の再形成—黒龍江省綏化地区の散居型朝鮮族を研究対象として—

氏 名

文 銀実

論 文 内 容 の 要 旨

本研究では、中国黒龍江省綏化市の朝鮮族の移動に着目し朝鮮族社会の人口移動の歴史をたどる時間的縦軸と、移動を実現した朝鮮族たちが様々な居住地(綏化・北京・天津・青島・ソウル)に展開しているという空間的横軸を設定し、朝鮮族の移動→定着→再移動→再定着という過程のなかで、朝鮮族社会がどのように変容し、新しい社会関係を形成していくかを考察することによって中国の朝鮮族という極めてユニークな性格をもった民族の特質を検討した。

序章においては、まず研究背景、研究目的を提示し、朝鮮族の歴史と現代の朝鮮族社会の二つの方面から先行研究の整理を行ったうえ、本研究で綏化朝鮮族を取り上げる理由と位置づけ、研究意義、研究方法及び論文の構成を述べた。

第1章では、満洲国成立以前、満洲国時期、中国解放以降という時間軸で、朝鮮族の歴史を概観した。その中でも、綏化朝鮮族の移住にかかわる満洲国時期を重点的に検討した。満洲国時期に関しては、「移民政策」をキーワードとして移民政策の計画期、展開期、崩壊期という三つの時期に分けて検討し、その中で、新規移民事業の展開に向けて、移民政策計画期に試験的に建設された朝鮮人集団部落—「綏化安全農村」を事例として取り上げた。

第2章第1節では、人口センサス資料に基づき、朝鮮族の伝統的居住地—中国東北地区の改革開放以降の状況及び朝鮮族の人口移動、人口構成・教育文化レベル、就業構造の変化を検討し、第2節では、朝鮮族が最も集中している韓国への移動をめぐる、労働移動の背景、経緯、在外同胞政策を検討し、韓国の統計資料に基づき、在韓朝鮮族の人口構成、教育文化レベル、職業、収入等を検討した。第3節では、朝鮮族の新たな居住地として北京・青島・韓国ソウルを研究対象地域に取り上げ、朝鮮族共同体を形成する過程から現在に至るまでの状況について総合的に明らかにした。

第3章では、綏化朝鮮族の個々人のライフヒストリーを通じて、朝鮮族の移動と定着について詳しく検討した。個々人の多様で複雑な動機・要因を解明し、より具体的な個人や家族のレベルでの思いや願い、生活にかかわる苦労や努力、さらに彼らを取り巻く周辺世界(個々人・社会など)の変化など

を通じて、個人だけでなく朝鮮族社会全体の変化を多角的かつ立体的に検討した。その結果、統計資料からは十分明らかにできない移住者の個人の移住経歴、世代間の変化、移住生活を通じた民族観・教育観・価値観・アイデンティティなど意識的な面の変容を生々の声を通じて考察することができた。

第4章では、綏化朝鮮族の生活史及びアンケート集計のデータを下に、綏化朝鮮族の移動と移動にともなう職業と生活、教育観、アイデンティティなどの意識変容、コミュニティ等諸変化を類型化し、理論的考察を行った。

綏化市は、朝鮮族散在地域の一つであり、人口規模が小さく主に農村地域に居住し、朝鮮族人口比率が非常に高いところである。それまでに朝鮮族のみの集落という比較的閉じられた空間で暮らしてきた綏化朝鮮族は、人口移動及び移住地域においても身内のみのきずなが非常に強い特徴をもつ。人的ネットワーク、コミュニティの形成に見られたように綏化朝鮮族は「身内」意識が非常に強かった。綏化市では朝鮮族人口の流出が最も活発であり、その背景には、朝鮮族独特の共同体の密な人的ネットワーク、朝鮮族特有の価値観などがあることを明らかにすることができた。そのような強いきずなで結ばれた人間関係は、人々の結束力を高めるのに非常に有利であり、例えば同級生・同郷人たちと力を合わせると、お互いに最も信頼できるビジネスパートナーになり、大きな力を発揮することができる。その反面、「身内」以外とのつながりを疎外してしまう傾向があり、現地社会との融合が難しくなってしまう問題もある。綏化市の朝鮮族には他の朝鮮族よりも強い独自の同郷意識や密接な人的ネットワークづくりの特徴があり、本研究では現地調査及びインタビュー調査を通じてそれを解明することができた。

終章では、第1章から第4章までの議論を踏まえ、総合的な考察を行い、序章で掲げた本論の研究目的についての回答を与えると同時に、今後の課題について述べた。

今後の課題としては、本研究で黒龍江省綏化地区朝鮮族を研究対象にしたが、綏化市で見られたような朝鮮族の動きが、他の地域の朝鮮族においてどのような状態なのか、十分に検討できなかった。とくに朝鮮族が最も集中している吉林省延辺地区では、既往研究も多いが、最近の動向がどうなっているかを研究の材料にすることも興味深いと思われる。また本研究では、首都圏・山東半島及び韓国の綏化朝鮮族を対象にしたが、そのほか、上海など長江デルタ、広州など珠江デルタ等地域にも多くの綏化朝鮮族等朝鮮族居住地が形成されており、今後は、調査対象地の研究範囲をさらに広げて研究を進めていきたい。

さらに中国には朝鮮族以外にも多くの少数民族がおり、それぞれ条件は異なるが、新しい社会の変動の中に投げ込まれている。朝鮮族とは異なる民族の特性がどのようにあらわれているのかも、中国の民族社会を研究するうえで重要なテーマである。機会があれば研究の幅を広げていきたい。

本研究の成果としては、

- 1) 一地域の移民社会の成立を類型化し、他地域における移民社会の成立についても比較検討を行うことによって、中国東北地方全体における朝鮮人移民の理解を深めることができた。
- 2) それまでに研究領域として十分に取り上げられていない朝鮮族の散在地域の研究の進展に貢献できたと考える。綏化市は黒龍江省 13 の地区級の市のうち、人口がハルピン市に次ぎ多い市であるにもかかわらず、朝鮮族人口は1万人弱で少なく、ひとつの朝鮮族郷以外、市の各農村地域に分散し

ている。綏化市においては地理的に分散していたが、改革開放以降の移住地(北京・青島・韓国ソウル等)においては、綏化人という同郷意識により新たな綏化人コミュニティが形成されるようになっていた。散在地域の朝鮮族が都市部及び韓国への移動と定着を実現する過程で、朝鮮族集中地域と異なる同郷意識や人的ネットワークづくりの特徴を解明することができた。

- 3) 朝鮮族社会の研究の中で、これまであまり実施されていないライフヒストリー研究法を用いて、移住の主体である実践者の語りにより立体的かつ多角的に移住の経歴、価値観の変化などをみることができた。彼らのライフヒストリーは、学術的に価値のある記録として次世代に伝えられ、今後の朝鮮族社会の研究に資する貴重な資料になるものとする。